ごうちゃんねる（GO-CHANNEL）　2026/01/14

電撃作戦 ベネズエラ大統領拘束の背後にうごめく悪の枢軸
エゼキエル戦争の伏線を問う

東住吉キリスト集会　高原 剛一郎 氏

✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡---✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡--✡

＊以前投稿した動画に誤りがありました。編集・カットして再投稿させていただきます＊

明けましておめでとうございます。今年もごうちゃんねるをよろしくお願いします。2026 年が始まりましたね。年始は爽やかな聖書の解説からスタートしたいと思ったんですが、年始早々、トランプ大統領やりましたねぇ。
アメリカがベネズエラを同時空爆して軍事拠点を無力化し、マドゥロ大統領夫妻を拘束してアメリカの裁判に掛けるということで、すでに拘置所に入ってるんですね。

アメリカが直面している敵は、ベネズエラの背後にいる、あるグループなんです。今日はその事柄についての真相と、これが何を意味しているのか解説したいと思います。というのは、それがエゼキエル戦争にも直結しているからです。

ベネズエラはアメリカの目と鼻の先にあります。ベネズエラは“小さなベネチア”という意味です。15 世紀末、スペインの探検家がマラカイボ湖の先住民の水上生活を見て、イタリアのベネチアに似てると。それで、小さなベネチア…ベネズエラというのが命名の由来になってるんです。

ここでアメリカはやりましたね。作戦が始まったのは夜中の 2 時ですよ。大統領を拘束したのが 3 時半。1 時間半です。もししくじったら、トランプ大統領の権威は、もう地に落ちますよ。

イランのアメリカ大使館が、イラン人によって占拠された事件がありましたね。444 日間ですよ。奪回するためにカーター大統領が特殊部隊を派遣したけど、大失敗しました。「何やっとるんだ！」これでもう、カーター大統領は選挙に勝ち目がない。

今年はアメリカの中間選挙があるので、トランプ大統領は絶対にしくじれない。
それで、西半球の 20 か所から 150 機の軍用機がベネズエラの首都に飛来して、部隊がマドゥロの寝室に押し入るまで、逐一最新情報を受け取りながら固唾をのんで見守り、90 分で拘束を成功させたんです。
投入した戦闘機だけで F18 ・ F22 ・ F35 ・ EA18 電子戦機・ E2 ホークアイ指揮統制機・ 24 発の巡航ミサイルを搭載できる B1 爆撃機・遠隔操縦ドローン。
万が一しくじった時のためにプランＢ・プランＣと二重三重四重に固めて、今回の作戦を間違いなく成功させるために、大統領宮殿とそっくりの町をアメリカ国内に造り、どのようにして連れ出すかという予行練習を何回もやった上で決行した。

ところで皆さん、今日本のメディアは「国連憲章違反じゃないか！」「よその国の

大統領を気に入らないからと軍事介入して、拘束して、アメリカで裁判受けさせるって、そんな横暴なことがあるか！」というようなニュースばっかりでしょ。

これは AFP のニュースです。「米国のマドゥロ大統領拘束に国際社会が懸念」

米国のマドゥロ大統領拘束に国際社会が懸念

【AFP=時事】米国が3日未明、ベネズエラのニコラス・マドゥロ大統領を拘束した作戦をめぐり、国際社会から不安の声が上がった。

【写真】ベネズエラの首都カラカスで、爆発後に煙が立ちよる様子

オンライン版の転載「マッデータブ」で、米軍がベネズエラでの作戦についてと題されたタイトルの記事を、「AFP BB News」が「米国が拘束」（2026年1月5日掲載）。（撮影者撮影）（AFP BB News）

ドナルド・トランプ米大統領は、米国がベネズエラを「運営」し、その巨大な石油埋蔵量を利用すると明言し、自国と手錠をかけられた状態で拘束されたマドゥロ氏の写真を投稿した。

マドゥロ氏大要は、麻薬密輸等の罪で起訴されている米ニューヨークへと移送された。

ロシアやイランなど、マドゥロ政権と良好な関係を持つ国々が米国の作戦を非難した他、フランスや欧州連合（EU）を含む米国の同盟国も同様に懸念を示した。

各国の反応は以下の通り。

■ロシア

ロシアは「主権国家の合法的に選ばれた大統領とその妻を解放するよう」米政権に要求した。

■中国

中国は「深く衝撃を受けた。主権国家に対する米国の露骨な武力行使とその大統領に対する行動を強く非難する」と表明。

■イラン

米軍から空爆を受けたイランは「ベネズエラに対する米国の軍事攻撃、さらには国家主権と領土保全の明白な侵害を強く非難する」とした。

国際社会ってどこなの？ロシア・中国・イラン・メキシコ・コロンビア。こんなん国際社会って言える？
ロシアってプーチンのロシアですよ。中国って習近平ですよ。イランはイスラム原理主義。メキシコは関税問題でアメリカと揉めている。コロンビアは親米国家だったのが社会主義政権になって、今アメリカと折り合いが悪い。
そんなところばっかり並べて、「これが世界の総意だ！」
ちょっちょっ待てよと。これね、印象操作ですよ。

もちろん、乱暴だなと率直に思います。だけど、アメリカの法の立て付けとしては、マドゥロは正式な大統領ではない。2 度の不正選挙で勝利したことになってるけど、彼は大統領じゃない。大統領じゃないことがはっきりバレた後、自分がコントロールしている裁判所、裁判の力で大統領に居直った人です。

ベネズエラは選挙システムが進んでいて、20 年くらい前から電子投票なんですよ。マドゥロが圧勝したと言った時、野党の指導者が、全国に 3 万か所ある投票センターの 2 万 5 千か所の電子投票のレシートを、一斉に情報公開したんです。
それは野党候補の圧勝だったんですけど、裁判所が根拠もないのに無効と言って、大統領に居直っている。

去年 8 月 7 日、アメリカはマドゥロに 5 千万ドルの賞金を懸けました。
逮捕して連れて来たら 74 億円差し上げますと。なぜかというと、今アメリカが本当に悩んでいる問題の一つが麻薬の蔓延です。覚醒剤／麻薬はどこから来るのか。中米や南米です。特にベネズエラから、コカインがどんどん輸出されている。
アメリカでは覚醒剤／麻薬はテロと規定されているので、「マドゥロは麻薬密売人の親玉じゃなくてテロリストだ。ヒズボラやハマスと同じテロリストの統領だ」と。
彼は、ニューヨーク州の裁判所で裁判を受けることが決まっています。

ところで、国際法と国連憲章は、読みようによってはどうにも変わるんですよ。
国連憲章は力による現状の変更は認めないと言ってるけど、その前提になっているのは民族自決の原則なんです。民族自決の原則は、民族の命運は民族が決めるというのを基礎にしています。だから、アメリカ国民の安全保障はアメリカが決める。
アメリカの国民にコカインや覚醒剤を送り込んで、累計で少なくとも毎年 7 万人以上の人が命を落としている。こんなことをそのまま黙って見過ごしにできるかということで、テロの親玉を拘束したという立て付けなんですね。
それでも、これは横暴だと言う人や国が現れるのも理解できます。

「『ありがとうトランプ』米国国歌斉唱も 歓喜の在外ベネズエラ人、800 万人脱出も帰還願う」

ベネズエラは、あまりの治安の悪さとあまりの貧困で、人口 2650 万人の内の 800 万人が国を捨てて出たんですよ。
この国におったら死ぬ。殺されてしまう。飢え死にする。
人間らしい生活できない。命からがら国を脱出した人たちが 800 万人もいるんです。
「ありがとうトランプ」とありますが、彼らはアメリカにいるベネズエラ人です。彼らはなぜアメリカにいるのか。
マドゥロのベネズエラにいたら、命がなんぼあっても足りないのでアメリカにやって来た。だから、マドゥロがいなくなって民主主義の国になっていったら、帰りたいと言ってるんです。

今回のこの軍事作戦は 1 月 3 日の夜中 2 時に決行されましたが、実はその 4 時間前に、中国特別使節の邱小琪（きゅう しょうき）がベネズエラを訪問して、マドゥロと会見してたんです。ツーショットで写ってますね。

邱は中国政府のラテンアメリカ問題担当特別代表で、ミラフロレス宮殿で大歓迎で迎えられています。
そして、「ベネズエラと中国の間には、揺るぎない兄弟愛がある。この 2 つの国は 600 件以上の二国間合意をレビューした。これから、ますます私たちの絆を深めていこう。ベネズエラはマドゥロを窓口にして、中国と一心同体でやって行こう！」
大歓迎パーティーが行われた 4 時間後に、約束した相手がベネズエラからいなくなった。

これ、意味分かりますか？トランプ大歓迎は中国のメンツを丸潰しにしたんですよ。
「おまえ、西半球に手を突っ込むってどういうことか、分かってんのか？」
言葉ではなく行動で示したんです。

今回のことの背景を、ちょっと遡って考えます。1990 年ころまで、ベネズエラは中南米の中でも有数のお金持ちの国でした。石油が出るから。埋蔵量はサウジアラビアを抜いて世界最大です。石油価格がどんどん上がるにつれてベネズエラ人たちの富が増えていくので、国民は良い生活をしていて指折りの裕福な国。
アメリカのマイアミまで買い物に行って、「こんなに安いの？もう 1 つちょうだい」というのが流行り言葉になるくらい裕福だった。

それがガラッと変わったのが、この人物が出て来た時です。
ウゴ･チャベス（1954-2013）。彼は社会主義革命をやりました。

石油を汲み出して精製するのは、アメリカの資本がやってたんです。
世界中に石油があっても、埋まってるだけではお金になりません。
汲み上げてタンカーに積んで輸送して、あるいは、汲み上げた原油を精製して石油製品にして輸出することで、利益が上がるんです。
でも、ベネズエラにはそれができる企業がない。

石油資本の世界というのは特殊な世界ですよね。
アメリカの石油資本が入って、数十億ドルのお金を掛けて石油を掘ってたんです。

ところが、この人物は社会主義者。どうしたかというと、国有化したんですよ。
国有化とは、国家権力を使って民間企業から財産を強奪することです。
数十億円じゃないですよ。数十億ドルの石油掘削施設・精製施設。
チャベスは「石油はベネズエラ人の資源だ。石油資本に利益を分けてやる必要なんかない。これは人民の物だ！」彼は毛沢東主義者を名乗っていた時もありました。
結局は、国有化で石油企業から全部強奪して、ベネズエラから叩き出したんです。
そして、自分の息のかかった人たちを、ド素人で石油のことを何も分かってないにも拘わらず、そういう会社に送り込んだんですけど、もうムチャクチャですよ。

まず何が困ったかというと、機械／マシンは必ず老朽化します。メンテナンスしないと機械の寿命はどんどん減っていくけど、そのスキルがある人たちを全員国外追放したので、すぐに駄目になるんですよ。駄目になっても部品購入ができない。
部品が手に入ったとしても、直す手立てが分からない。
そのうちに、高騰していた石油価格がドーンと下がったんです。そうなると外貨収入がなくなります。ベネズエラの外貨収入の９割は石油なんですよ。
外貨収入が減って輸入食糧が買えなくなりました。それでインフレが起こります。
ベネズエラ国内にも農業はあるけど、全部値上がりするじゃないですか。
食糧が今までの値段で買えない。彼は社会主義者なので、食糧値段の上限をむちゃくちゃ低く設定したんです。人気取りのために。

するとどうなるか。経済合理性を無視した価格設定なので、コストをはるかに下回る値段で売らなければならない。それではだれも作りません。作って売れば売るほど、赤字になって貧しくなるから。農地を捨てる人たちも出てくる。国がどんどん荒れて、貧しくなって、どうにもならなくなって、賄賂だらけになった。

チャベスが死んだ後、その後を継いだのがマドゥロです。自称大統領。
彼がやったのはコカイン／麻薬です。麻薬で莫大な利益を上げる麻薬組織の上前を撥ねているのがマドゥロ。それが分かっているので、彼は麻薬密売人の統領で、麻薬テロのテロリストだとなってるんですが、国民はたまったもんじゃない。

そのボロボロの状態になっていった時に近づいたのが中国ですよ。
中国は老朽化した石油施設を「中国の技術で作り直せるよ」と、600 億ドル投資しました。投資だから回収がある。600 億ドル、返しきれないじゃないですか。
そこで中国はどうしたか。ベネズエラの石油、現物で支払わせるんです。
ベネズエラの石油の 85%は中国向けです。アメリカがベネズエラの石油を制裁しているので買えないはずなんですが、中国はそれをどんどん吸い取っている。

そんな状況の中で、ベネズエラのお金は紙屑同然。ドルしか通用しない。
そのドルを元に置き換えることができたら、中南米の社会主義国を軒並み、中国の影響下に置くことができる。その最前線基地として用いられ、活用されようとして

いたのがベネズエラですよ。

西半球／南北アメリカは、アメリカにとって自分の庭なんです。
アジアもヨーロッパも海で隔てられているけど、中南米は陸で繋がっているじゃないですか。ここは我々の縄張り。そのアメリカの喉元のところに、中国が莫大な金を投資して接近している。アメリカにとって見過ごせないことでした。

「イスラエル大使暗殺を阻止、イランが昨年末以降計画＝米政府高官」

イスラエル大使暗殺を阻止、イランが昨年末以降計画＝米政府高官

Steve Holland

2025年11月10日 午前 10:30 GMT+9 - 2025年11月10日更新

【ワシントン 7日 ロイター】- 米政府高官は7日、匿名を条件に、イランのイスラム革命防衛隊が昨年末以降に駐メキシコ・イスラエル大使暗殺を企てたが、計画は阻止され、今のところ脅威はなくなっていると明らかにした。

アイナット・クランツ・ナイガー大使に対する暗殺計画は今年前半まで活発だったという。

高官はロイターに対し「イランが外交官、ジャーナリスト、反体制派、そしてイランに反対する人々を世界中で標的にしてきた長い歴史のほんの最新事例であり、イランのプレゼンスがある全ての国を脅威させるものだ」と述べた。

どのようにして計画が阻止されたのかなどについては言及を避けた。

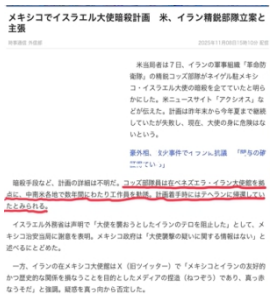
イスラエル外務省は声明で、メキシコの治安・法執行当局に感謝の意を示した。

一方、メキシコ政府は「駐メキシコ・イスラエル大使に対する攻撃疑惑に関する情報はない」と表明した。

イランのメフル通信によると、在メキシコ・イラン大使館は暗殺計画は「全くのでたらめ」だと反発。「われわれの友人であるメキシコ人の評判を汚すことは決してない。メキシコの利益を裏切ることは、われわれ自身の利益を裏切ることであり、メキシコの法律を尊重することはわれわれの最優先事項だ」と述べた。

ロイターの去年 11 月 10 日の記事です。
「イスラエルの駐メキシコ大使が、イランの革命防衛隊特殊部隊／コッズ部隊によって暗殺される寸前まで行ったが、メキシコ当局に阻止された。今のところ、この大使は安全である」と言うんです。
イランがメキシコのイスラエル外交官を狙った！
どのようにしてこの計画を阻止したか、この記事ではぼかしてるんですが、ちょっと深読みしたいんですね。

「メキシコでイスラエル大使暗殺計画 米、イラン精鋭部隊立案と主張」
これは去年 11 月 8 日の時事通信の記事です。私が赤線を引きました。


メキシコでイスラエル大使暗殺計画　米、イラン精鋭部隊立案と主張

米当局者は7日、イランの軍事組織「革命防衛隊」の精鋭コッズ部隊がネイゲル駐メキシコ・イスラエル大使の暗殺を企てていたと明らかにした。米ニュースサイト「アクシオス」などが伝えた。計画は昨年末から今年夏まで継続していたが失敗し、現在、大使の身に危険はないという。

暗殺手段など、計画の詳細は不明だ。コッズ部隊員は在ベネズエラ・イラン大使館を拠点に、中南米各地で数年間にわたり工作員を勧誘。計画着手時にはテヘランに帰還していたとみられる。

イスラエル外務省は声明で「大使を襲おうとしたイランのテロを阻止した」として、メキシコ治安当局に謝意を表明。メキシコ政府は「大使襲撃の疑いに関する情報はない」と述べるにとどめた。

一方、イランの在メキシコ大使館はX（旧ツイッター）で「メキシコとイランの友好的かつ歴史的な関係を損なうことを目的としたメディアの捏造（ねつぞう）であり、真っ赤なうそだ」と強調。疑惑を真っ向から否定した。

「暗殺手段など計画の詳細は不明だ。コッズ部隊員（コッズはエルサレムのことで、イラン革命防衛隊の中の特殊部隊です）は在ベネズエラ・イラン大使館を拠点に、中南米各地で数年間にわたり工作員を勧誘。計画着手時にはテヘランに帰還していたとみられる」

なんとアメリカのお膝元の中南米で、イスラエルの外交官たちに対するテロを決行する人たちをスカウトし、訓練してやらせようとしていた。
その時、どこが中心拠点になっていたか。ベネズエラだと。
イランが中南米テロの拠点として最前線基地にしていたのは、ベネズエラのイラン大使館だと言ってるんです。

「ベネズエラとイラン、『反米』で接近 ガソリン大量取引、制裁にあえぎ結束」

ベネズエラとイラン、「反米」で接近　ガソリン大量取引、制裁にあえぎ結束

国際　政権　北米　中東　中南米

毎日新聞　2020/6/28 18:05（最終更新 7/10 18:34）　有料記事　1092文字

ベネズエラのマドゥロ大統領＝AFP

米国の経済制裁を受け、苦境に立つ石油大国の南米ベネズエラと中東のイランが関係を深めている。イランは5月下旬～6月初旬、燃料不足にあえぐベネズエラにガソリンを大量輸出。米国は制裁を強化して締め付けに躍起になっており、両国は反発を強めている。

米国務省は6月下旬、ガソリンなど石油製品計150万バレルをベネズエラへ輸送したとして、イランのタンカー5隻の船長5人に制裁を科すと発表した。ポンペオ国務長官は「船長のキャリアと将来は苦しくなる」と述べた。この発表を受け、ベネズエラのアレアサ外相は「高慢さが行き過ぎている」と米国を非難。イラン外務省も「不当な制裁に対抗するため両国は毅然（きぜん）として対応する」と取引継続の姿勢を強調した。

イランはアメリカから制裁を受けてますね。
ベネズエラも経済制裁受けてます。
ベネズエラは原油が採れても自分で精製できません。
これは 2020 年の記事ですが、150 万バレルの石油製品を積んだイランのタンカーがベネズエラに行く。
ベネズエラからは原油がイランに行く。
ドル決済しようとしても、お互いドルを持ってないので、バーター取引／物々交換で石油製品と原油を交換する。アメリカの制裁を受けている者同士が手に手を取って、協力して生き延びていこうと繋がってるんですね。

「ヒズボラに資金援助するベネズエラの政商の素性」

ヒズボラに資金援助するベネズエラの政商の素性

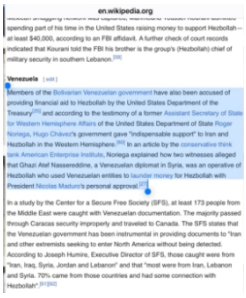
執筆者：Foresight　2008年9月号
タグ：ロシア　シリア
エリア：

シェアする　ポスト　送る　お気に入り登録

米国はこのほど、ベネズエラのチャベス政権がレバノンのイスラム教シーア派武装組織ヒズボラを支援していると非難したが、ヒズボラに直接資金を提供しているのはベネズエラ在住の政商との見方が強まっている。　ベネズエラの首都カラカスの消息筋によれば、この政商は中東生れの実業家ファウジ・カナン氏で、カラカスで旅行・観光業を手広く営む一方で、武器取引にも従事しており、ベネズエラとロシアの大型兵器売買契約にもアドバイザーとして関与しているという。　カラカスの米国大使館筋は「カナン氏は、少なくともここ数年、徹底した反米姿勢で知られるチャベス大統領に資金を提供する代わりにさまざまなビジネス利権を獲得した」と述べる。

これはちょっと古いですが、雑誌フォーサイトの2008年9月の記事です。イランとベネズエラはそんな時から、チャベスの時から繋がってるんですよ。
ヒズボラにベネズエラの偽パスポートを出したり、ベネズエラがヒズボラのマネーロンダリングの片棒を担ぐというか、テロの資金が分からんように協力して来たことが分かってるんですね。

これはウィキペディアの英語の記事です。ベネズエラがいかにヒズボラの資金洗浄に関わってきたのかが書いてある。


en.wikipedia.org

spending part of his time in the United States raising money to support Hezbollah—at least $40,000, according to an FBI affidavit. A further check of court records indicated that Kourani told the FBI his brother is the group's (Hezbollah) chief of military security in southern Lebanon.[200]

Venezuela [edit]

Members of the Bolivarian Venezuelan government have also been accused of providing financial aid to Hezbollah by the United States Department of the Treasury[201] and according to the testimony of a former Assistant Secretary of State for Western Hemisphere Affairs of the United States Department of State Roger Noriega, Hugo Chávez's government gave "indispensable support" to Iran and Hezbollah in the Western Hemisphere.[202] In an article by the conservative think tank American Enterprise Institute, Noriega explained how two witnesses alleged that Ghazi Atef Nasseddine, a Venezuelan diplomat in Syria, was an operative of Hezbollah who used Venezuelan entities to launder money for Hezbollah with President Nicolas Maduro's personal approval.[203]

In a study by the Center for a Secure Free Society (SFS), at least 173 people from the Middle East were caught with Venezuelan documentation. The majority passed through Caracas security improperly and traveled to Canada. The SFS states that the Venezuelan government has been instrumental in providing documents to "Iran and other extremists seeking to enter North America without being detected. According to Joseph Humire, Executive Director of SFS, those caught were from "Iran, Iraq, Syria, Jordan and Lebanon" and that "most were from Iran, Lebanon and Syria. 70% came from those countries and had some connection with Hezbollah".[204][205]

つまり、ベネズエラは、単に麻薬を輸出してきたということ以上に、ロシア・イラン・中国の悪の枢軸国家がアメリカに揺さぶりを掛けるために、アメリカの目と鼻の先の最前線基地として活用されてきた。そして、その大きな窓口／担当者になっていたのがマドゥロ大統領なんです。
人の縄張りを侵すなということで、それを潰すことによって、今トランプ大統領は中南米を固めてるんですね。

アメリカには昔からモンロー主義というのがあります。
モンロー大統領が1823年に言ったことで、「アメリカはヨーロッパの内戦に介入しません。その代わり、ヨーロッパ列強が北米大陸・中米大陸・南米大陸／南北アメリカ大陸の問題について干渉することは絶対に容認しない！」
北米大陸と中南米大陸を西半球と言いますが、これは大西洋と太平洋に隔てられた一つの島。アメリカはここに閉じ籠る。ここには絶対に手を付けるなよと。

それが、中国・ロシア・イランは手を付けてたんですよ。それをなおざりにしていたら、アメリカは大変な危機になる。なので、一番身近にある問題の芽を摘んだというのが今回のことなんです。それで今、アメリカではドンロー主義と言われているそうです。ドンロー主義のドはドナルド･トランプのド。
アメリカはいつでも南北アメリカ大陸に固まって、引っ込むこともできる。

しかし、トランプ大統領はまずそこを固めた上で、その次に、中国に対してアクションを起こすと思います。今年は、米中首脳会談が4回行われますよ。
レアアースの問題とかいろいろあるのでまずはディールですが、中間選挙の前までは、大きく事を構えることはないと思います。しかし、中間選挙が終わって、もう再選の心配をしなくてもいい時に、置土産として中国に対する本格的な包囲網が始まるのではないかと、私は考えています。

2026年はここからですよ。結局ロシア・イラン・そして、トルコの結び付きも関係しますよ。今私たちの目の前で起こっている事件と、エゼキエル戦争が結び付いているんですね。

この動画を初めて見て、「エゼキエル戦争？なんのこっちゃ？なに言うてんねん、

この人」と。バックナンバーに解説があるので、ご覧くだされば感謝です。
これからも聖書預言について解説していきますので、よろしければお付き合いください。ということで、今年もよろしくお願いします。
チャンネル登録もお願いします。また、ごうちゃんねるでお会いしましょう。
皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！